

水曜通信 23

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年
6月

第23回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年6月19日（水） 18:30-19:00



説教：出村 彰

（本学名誉教授・学校法人宮城学院名誉理事）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.S.バッハ「ただ愛する神の力に委ねる者」はBWV647」

讃美歌：38番「わが霊のひかり」

聖 書：マルコによる福音書 9章14-29節

讃美歌：270番「信仰こそ旅路を」

説 教：「わたしの不信仰をお助けください」

頌 栄：539番「あめつちこそりて」

後 奏：J.S.バッハ「ただ愛する神の力に委ねる者」はBWV642」

後奏の後、30分間のモリゴー・フォー（グリーククラブ・聖歌隊OB）による男声四重唱での賛美を行ないます。

次回第24回水曜礼拝は7月17日です。

第22回 水曜礼拝報告(説教:ランダル・ザッカマン、奏楽:小野 なおみ)

2019年5月15日(水) 18:30-19:00

讃美歌: "Come, Thou Fount of Every Blessing",
Psalter Hymnal # 314

聖書: Acts 11:1-18 「使徒言行録11:1-18」

説教: "The Freedom of the Spirit." 「御霊の自由」

讃美歌: "For All the Saints," Psalter Hymnal # 442



【説教要旨】

「御霊は私に『彼らと私たちを分け隔てしないように』と告げた」

人間はお互いを分け隔てることをしばしば行います。私たちは地位を求める生き物なので、自分の地位は高め、他人の地位は低め、裕福な人は貧しい人から自分を区別します。今日の聖書の中で、聖霊がベトロに宣教する上で自分の仲間と異邦人を分け隔てないように命じました。それはウィリアム・ホーイが来日したときに直面した状況も日本の社会に同じような様子を見ました。日本の様々なタイプのクリスチャンの間にすら分け隔てがあることに気づきました。仙台神学校と女子学校を建設する願いも男性と女性の分け隔てを良くないと考えたからです。どうか、私たちの時代にもこのメッセージとこの働きに生き抜く勇気が与えられますように。

(野村信)

前奏: C-M. ヴィドール「オルガン交響曲」より3.カンティレーヌ

後奏: 聖歌「復活のいけにえに Victimae Paschali Laudes」

C-M.ヴィドールは19世紀から20世紀にかけて活躍した、フランスのオルガニスト兼作曲家です。オルガン独奏のための「オルガン交響曲(全10曲)」が良く知られています。第10番は第3楽章を含め、随所に復活の聖歌が出てきます。後奏の聖歌も復活祭用であり、20世紀後半にパリのノートルダム大聖堂で司祭を務めつつ、音楽家でもあったJ.レヴェールによる和声で演奏しました。(小野なおみ)



礼拝とその後の19時00分から30分までの東北学院宗教部聖歌隊、グリークラブ、キャロラズ合同での賛美に56名の市民が参加されました。

礼拝後、東北学院宗教部聖歌隊・グリークラブ・キャロラズ合同による合唱での讃美

今回の演奏では、日本語の讃美歌を中心に選曲をしました。1曲目に「主はわがかいぬし」を歌い、2曲目の「闇から光へ」では2番～5番までの部分をそれぞれ少人数で歌う部分(ソリ)を立てて演奏しました。また、3曲目の「我らが神は堅き砦」は、今回指揮をした菊池晏男さんが編曲したものを歌いました。また今回、指揮・オルガン奏者を学生から選び、歌唱隊には聖歌隊の指導をしてくださっている中川先生と一緒に歌いました。練習時間が限られており、なおかつソリがあったこともあり苦勞する時もありましたが、良い演奏をすることができました。



(文学部 歴史学科 3年 宗教部聖歌隊 小林昂生)

“FAITHFUL UNTO DEATH” (6)

「金子謹三の貢献—金子記念印刷所—」

「金子記念基金」への反応は目覚ましく、ついには外国伝道局の一年間の予算総額に匹敵する二万五千ドルもの巨額に達しました。『メッセンジャー』（1895年9月5日）は、東北学院理事局が6月25日の会合で、金子を支えてきたアメリカの同信の兄弟たちに公式に感謝の意を表し、金子の記憶が同国人の間に長く保持されるように基金を用いることを確約したと報じています。

この基金は、ホーイが提案した「金子記念印刷所」の設立の時に初めて用いられました。当時、東北学院には働きながら学ぶ学生のための労働会という組織があり、市内の東八番丁に開設された印刷所では1898年12月から日本語による印刷を開始し、翌年1月からは英文印刷も始められました。

金子記念印刷所は、東京より北では最も優れた印刷所として評価され、多くのキリスト教伝道文書が印刷・発行されて、特に東北伝道に大きな貢献をすることになりました。（続く）



金子記念印刷所

（東北学院史資料センター 日野哲）

ランカスター神学校ザッカマン教授の滞在

本学の招きで、5月14日に仙台に到着され、20日に離日されたランダル・ザッカマン教授は滞在中に講演をふたつ、水曜礼拝と大学礼拝でのふたつの説教、そして3年生のゼミ授業をひとつ担当され、様々な刺激を与えてくださいました。講演のひとつは、18日に同じくお招きした神戸改革派神学校校長の吉田隆先生、それに本学の野村信教授とのシンポジウムで、まず野村教授が「闇」と「光」の語源的分析を詳細にされ、吉田先生は苦難の例として「戦争と平和」の問題を取り上げられました。ザッカマン教授は「私を見捨てた神を呼ぶ：苦難を問うジャン・カルヴァンの祈り」との題でカルヴァンの詩編注解を扱われました。また20日のフォーラムでは「キルケゴール・苦難を通して神と親しむ」と題して、キルケゴールの苦悩について解釈されました。いずれも苦難がテーマで、聖書のなかの「悲しむ人々は幸いである」（マタイ5：4）の意味を問うています。ザッカマン教授によると、カルヴァンにとって、キリスト者の敬虔の中心には、キリストによって表わされ完成されたところの、神の約束への信仰があり、苦難のなかで救いを求めるダヴィデもまた、「神の性質は不変であり、その善性を捨てることはない」との信仰に依ります。絶望のなかにあっても、「信仰深い人々は、多くの悩みの中に投げ込まれていますが、実に幸せです。それ以外の根拠はありません。父なる神の御顔が彼らに輝きわたり、暗闇を光に変え、いわば死せる者をそこから蘇らせるのです。」（詩編註解4：6）

また、キルケゴールについての講演では、当時の「キリスト教社会」が福音による現実肯定を根拠に楽観的キリスト教を楽しんでいたことを、キルケゴールが、苦難こそ信仰であると痛烈に批判したことを紹介されました。まさにマタイによる福音書の聖句を考えさせられる講演でした。（鐸木道剛）



— ランカスター神学校での発見（8） —

「最初の捧げもの」

仙台神学校の設立当初、押川とホーイが経費問題で悩んでいたころ、香味ちかという未亡人が古銀12枚を携えて押川を訪ねて来ました。彼女は、その数年前に押川が始めた仙台教会で洗札を受けたばかりでしたが、長年ひそかに貯えた一分銀貨をすべて捧げました。

押川は目に涙を浮かべながら「私たちの祈りは聴かれ始めた」とホーイに報告し、ホーイも自らそのうちの9枚を買い求めました。

一分銀は当時すでに通用しなくなっていたものの、12枚でほぼ50日分の労賃に相当し、決して少なくない金額でした。

ホーイは、この9枚をアメリカの伝道局本部に送り、8枚は関心のある教会員に転売され、1枚はランカスター神学校に長く展示されていました。その説明文には「香味（カミ）は“Fragrant Taste”（香り高い味わい）、チカは“Nearness”（近い）を意味する」と書かれ、神の祭壇にかぐわしい捧げものを携えて近づく婦人として覚えられています。この一分銀（本物）は、本院の創立100周年の際に返還され、ランカスターには同等の銀貨が本院から寄贈されています。



香味ちかと一分銀



一分銀と財布（現況）

（東北学院史資料センター 日野哲）

共催講演会のお知らせ

◆文学部総合人文学科公開講座

「救いは苦しみの中に—聖書における苦難の意義—」

日 時：2019年7月6日（土） 13：00～15：00

会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館3階 H302教室

講 師：田島卓（本学文学部講師）

吉田新（本学文学部准教授）



◆文学部総合人文学科主催 公開講演会

「一神教、イコノクラスム、物質文化」

日 時：2019年7月6日（土） 14：00～16：30

会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

講 師：鐸木道剛（本学文学部教授）

ダリオ・ガンボニー（ジュネーブ大学教授）



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第23号

2019年6月4日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/